



四天王寺からのぞむ「あべのハルカス」

「お花見」「海水浴」「紅葉狩り」「雪合戦」見たり聞いたりするだけで、その情景が浮かんでくる言葉があります。私たちはこれらを四季折々の風物詩として味わいます。

「彼岸会」「盂蘭盆会」「報恩講」「年忌法要」これらも同じようにそれぞれの季節が思い描かれる事でしよう。しかし、仏事が風物詩で終わつてはいなでしようか。

その季節に、その行事を――。風物詩ならそれだけでよいのかもしません。

以前、法要のあと「無事に終わつてよかつた」とホツとしていたところ、「終えて喜んでいるのか」と、ある師に言われました。

お勤めをすることは大事なことです。でもそれで終わつてしまふのではなく、法要をご縁として、「教えとの歩み」が新たに始まつていくことが仏事の要なのでしよう。

四月、前住職の十三回忌法要を迎えるにあたり、風物詩で終わらせるのか否か、自らのあり方が問われているようです。

(隅谷俊紀)



がん 岸 彼 到 うと

～大阪別院
彼岸会法話より～

正念寺 おさだ 長田 ゆづる 譲

が日常的に使われますが、「苦」の字の
もとはインドの言葉で「不如意」の意
味であつたとされます。人生は「意の
如くならず」です。

お釈迦さまは宮中の優雅な生活は永
遠のものではなく、若さや健康を追い
求めて、人は老いて、病んで、死ん
でいくという事実はさけられない苦し
みであると見抜かれました。

そんな我が人生を、私の思うように
したいというところに苦悩、迷いが生
じるのです。

大自然はもとより、政治経済も、人
間関係もやはり私の思うようにはなり
ません。愛しい人との別れもあれば、「あ
いつさえいなければ」と憎しみをいだ
く人とつき合つていくこともあります。

「氣に入らぬ 風もあろうに 柳か
な」。風向きによって枝や葉は四方にな
びきながらも、柳の幹は抛りどころを
失いません。私たちは仏さまの教えに
遇い、世間に流されず、我が身を生き
ていくための抛りどころとして智慧を
いただくのです。

「お迎えは 何時 いっつ
でも良いが 今日は
嫌」（『シルバー川柳』より）

よくご年配の方から「もういつお迎
えがあつてもかまいません」という言
葉を耳にします。しかし本音は「死」
を遠ざけたいから、「今日は嫌」となる
のでしよう。

人生は「苦」

今では「四苦八苦」という仏教用語

智慧をいただく

仏教とは、道理に目覚めたお釈迦さ
まが説かれた教えです。それは、「不如
意」の人生だからこそ、苦悩する我が
身をありのままに受け入れていける智
慧の教えを聞かねばならないと私はい
ただいています。

如是我が聞

によ

ぜ

が

もん

これからのお寺の必須条件とは

浄土真宗本願寺派布教使 松本紹圭師



無形の価値

松本師は話されました。

人間の苦しみ悲しみ、また、この先どう生きていくべきのか分からぬ、そういう自分自身が問題となるような苦悩はいつの時代でも老若をも問わざるもので。そのことを見続けた宗祖。

「弥陀の五劫思惟の願をよく

平成25年9月6日、浄土真宗本願寺派布教使松本紹圭師を講師に迎え、法友会研修会が開催されました。

お寺を取り巻く環境

じながら生活されています。

「あなたにとって一番大切なものは何か」という質問に、五十年前は、生命・健康・自分・愛情・精神などが高い回答でしたが、今は「家族」という答えが五倍の五十%でした。

しかし現在の日本の世帯平均人數は、五十年前の半分の二・五人になり、二世代や三

日本人の信仰心ということを統計を取ると、人生に不安を感じ、宗教を必要としている人の割合はこの五十年間あまり変わりないので、「わ

が家の宗教」という思いはあきらかに減少傾向でした。

このような現状の中において、誰もが安心して手を合わせ、わが人生をより深く味わ

える場所を提供することが、本来のお寺の使命です。

家の宗教より個の思いが大切にされる今、個々で宗教を選ぶ時代になり、お寺の真の実力である「無形の価値」、いふかえるとご縁の力が試される時代になります。

「弥陀の五劫思惟の願をよく

一人がためなりけり」（『佛光寺聖典』八一〇頁）と、弥陀の本願以外に苦悩の私を救う教えはない。そのことこそが仏教の要であると聖人は言い残されました。

だからこそ、人々と生活をともにし、いのちに寄り添つれた仏の教えをいただく姿この仏教との出遇いに感動された宗祖親鸞聖人の人生にまで

立ち返ることが大切であると

住職とともに宗祖の感動された仏の教えをいただく姿こそが「無形の価値」であると聴かせていただきました。

大阪探検

しながさん えいふくじ 磯長山 敦福寺



敦福寺の全景



三骨一廟



大阪府南河内郡太子町太子 2146

電話 0721-98-0019

○近鉄長野線「喜志」駅より

金剛バス「太子前」バス停下車徒歩約3分

○南阪奈道路「太子 IC」から約5分

親鸞聖人は19歳の時

磯長の夢告

夢の中で、「おまえの余命は10年余である」という太子の声を聞くのですが、聖人が法然上人に出遇われ、雑行を棄てて本願に帰されたのは、この夢告から10年後のことでありました。

(佐々木太一)

大悲④ 第13号

敦福寺は磯長山と号し、大阪府東南部の太子町にあります。寺伝によれば寺院の創立は推古天皇30（622）年、聖徳太子の御廟を守るために一堂を構えたのがはじまりとされています。

三骨一廟

境内北方の高所に位置する御廟は聖徳太子、太子の妃そして太子の母の三人が一所に埋葬されていることから三骨一廟と呼ばれています。四天王寺、法隆寺と並んで敦福寺は太子信仰の中核として、太子の徳を慕う人々の参詣が今も絶えることはあります。

真の菩薩を」

にこの磯長の御廟に三日参籠されたと伝えられています。一日目の夜、聖徳太子が現れて次のような言葉を告げます。「阿弥陀如来と觀音・勢至菩薩が迷いの世界を教化してくださるが、日本は眞実の仏法が花開くにふさわしい所である。諦かに聞きなさい、諦かに聞きなさい、私が教えるところを。お前の寿命はあと10余歳しかない。しかし命終ると直ちに弥陀の淨土に生まれるだろう。よく信じなさい、よく信じなさい、

全国の

ごえんさんを訪ねて

ちょうがんじ

超願寺 (大阪) 道野真弘 住職

みちの まさひろ



超願寺全景 (ビルの 1 階が本堂)

慶長十二 (一六〇七) 年に豊臣家の家臣であった木村長門守重成の叔父である木村助右衛門が得度され開基した寺院と伝わります。

木尊は平成二十年に大阪市の指定文化財に指定され「市内に残る鎌倉彫刻のうち特に優れた作品の一つであり、特色ある阿弥陀如来像としても希少」と評価されました。

一足のわらじ

平成二十四年四月に大遠忌法要

ながら、近畿大学法学部で法律学、六代の住職を継職されました。また法務を前住職と一緒に務めとりわけ会社に関する法律（会社法）の教鞭をとつておられ、二足のわらじで大変忙しい日々を送つておられます。今の学生さんについてお聞きしますと「お寺に来られる方の仏法を聞きたい」という熱意を学生達にも持つて欲しい」と、強く願つておられました。

昨年はゼミの勉強会を超願寺の本堂でされ、いつもと違った雰囲気に好評だったそうです。これをきっかけに少しでも仏教の話ができればとお考えのこと。

本山においても住職候補の研修会で「法規解説」の講義をしてお



ご本尊

うれます。

グッズ収集

熊本県のゆるキャラ「くまモン」のグッズ収集にこつていてるそうで、目につくと思わず購入してしまい、家中はくまモンであふれているそうです。

今もなお、面白そうなグッズはないかと、買い物に出かけるついで目を凝らしてしまつとか。

ちなみに収集のきっかけは「(ご自身とくまモンが)似ているな」と強く親近感を感じたからだとか。

(玉出宗順)

■超願寺 (ちょうがんじ)
〒556-0016
大阪市浪速区元町1-12-3
電話 06-6631-8956
Fax 06-6631-2827
地下鉄・南海・近鉄 (阪神)・
JR の各「なんば駅」より
徒歩5~8分

大悲トピックス

渋谷会ご一行・大阪別院参詣

2月20日、本山の渋谷会（学生の会）の7名が大阪別院を参詣されました。

お勤めのあと、中井輪番から、別院の歴史や過去の大遠忌の話があり、その後、皆さんで昼食をともにし、親睦を深められました。



■懇志御礼
新潟市南区 梵行寺様



中井輪番のお話を聴かれる渋谷会ご一行

ご寺院、お役に立てる商品が、きっと見つかる情報誌！

寺がある、法が活きる、寺の友社。



〒611-0002 京都府宇治市木幡平尾54番地の2
TEL 0120-7676-39 FAX 0120-7676-29
<http://www.teratomo.jp>

ご希望の、ご寺院には、無料カタログをお送りします。

(株)小林造園

代表取締役：小林正典

〒603-8442

京都市北区西野山東町 36-1

tel 075-491-4256

fax 075-491-9432

御本山 近用達

株式会社 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話(075)371-0367(代)

FAX(075)371-5088

御本山佛光寺御用達

井筒法衣店

社長 幾田 潤

〒600-8503 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

フリーダイヤルTEL 0120-075-720番

フリーダイヤルFAX 0120-075-490番

燐ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。



公益社

公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK)

0120-567-701

※2012年5月現在 [2-0131]

燐ホールディングス グループ



なごみ庵

ま・た・ぱ・ま

KITAHAMAMA

法要料理

■四條畷店 ☎0743-78-7521
■瓜破店 ☎06-6769-0140
■伊丹店 ☎072-773-7531

※2012年5月現在 [2-0132]

正しい値段 正しい奉仕

一佛壇・佛具

又重屋

南海高野線堺東銀座街

〒590-0077 堺市堺区中瓦町1-3-9

電話 072-232-0067・1565

FAX 072-232-6339

慶事・仏事・各種会合などの際は
和光菴のお料理を御利用下さい。

0120-11-5680

仕出しへ年中無休 ※年末年始除く

株式会社 和光菴

〒543-0073
大阪市天王寺区生玉寺町3-32

<http://www.wakouan.co.jp>

京懐石

和光菴

株式会社 モントラベル

〒550-0013

大阪市西区新町1-8-1 行成ビル

TEL. 06-6531-1344

FAX. 06-6531-1346

<http://www.monto.co.jp>

仏跡参拝ならお任せください！

だいひ 絵日記

- 1月 2日 (木) 大阪別院修正会
- 1月 10日 (金) 大阪教区新年互礼会 ①
- 1月 20日 (月) さつき会研修会 (恵信尼様のお手紙・講師:門川崇志師) ②
- 1月 21日 (火) 大悲の会編集会議 (総会・第13号読み合わせ)
- 1月 25日 (土) 佛青懇和会研修会 (雅楽講習会)
- 2月 7日 (金) 法友会研修会 (宗教法人の税制について・講師:脇阪義幸師) ③
- 2月 20日 (木) 大悲の会編集会議 (第13号読み合わせ) (常光寺にて) ④
- 2月 22日 (土) 佛青懇和会研修会 (雅楽講習会)
- 3月 11日 (火) さつき会研修会 (恵信尼様のお手紙・講師:門川崇志師)
- 3月 13日 (木) 佛青懇和会研修会 (見るとこ変わる佛光寺・講師:吉田 譲師)
- 3月 18日 (火) 大阪別院彼岸会 (布教:藤野良昭師)
- 3月 21日 (金) 大阪別院彼岸会 (布教:葦名 彰師)
- 3月 24日 (月) 大阪別院彼岸会 (布教:寺田宗隆師)
- 3月 25日 (火) 大悲の会編集会議 (第13号発送作業・第14号内容検討)
- 3月 29日 (土) 佛青懇和会研修会 (雅楽講習会)



創業安政3年
京 佛 具 調 進
森田屋
福野御佛具處
〒601-8424
京都市南区西九条猪熊通九条上る
tel. fax 075-691-8423

本山佛光寺 御用達
石の総合メーカー
株式会社 **石留石材**
ホームページ
<http://www.ishitome.co.jp>
本社:京都市中京区堀川御池角
TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

表具 八木米寿堂
御本尊掛軸修理 絵画、書の表装
〒600-8073
京都市下京区柳馬場通仏光寺上る
tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

協 賛
法 友 会
さ つ き 会
佛 青 懇 和 会

- 大正三年創業の信頼と実績 -
石留石材株式会社
各種石塔・石仏・記念碑
寺社建築石材まで
○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK
0120-53-5578
[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

和奏の会 翠笛会
寺院のイベントに邦楽(尺八・
箏)出張演奏いたします。
曲目はリクエストできます。
事務局:阪南市新町 宝林寺
電話 072-472-1414
<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

■広告募集(『大悲』発行は広告によって支えられています)
企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。
1区画(55 mm × 40 mm)、掲載1回につき5,000円です。

■定期購読(ご門徒の皆様方にもお渡しください)
『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部
単位でお願いいたします。





大阪教区・別院 行事予定



大阪教区

6月6日(金)午後5時 総会

法友会（住職会）

6月6日(金)午後5時 総会

さつき会（坊守会）

総会（日程場所未定）

佛青懇和會（青年會）

総会（日程未定）

大悲の会 (『大悲』編集会議)

4月14日(月)午後6時 編集会議

5月21日(水)午後6時 編集会議

6月25日(水)午後6時 編集会議

※場所明記のない行事は大阪別院で開催



あべのハルカス展望台からのぞむ「四天王寺」

編集後記

★前号まで巻頭（1 頁）の写真は「大阪別院」関連を中心に掲載していましたが、今号より「大阪の街」をテーマとさせていただきます。第 1 回目の今回は「四天王寺からのぞむ『あべのハルカス』」。3 月にグランドオープンした「あべのハルカス」は、高さ 300m で日本一高いビルとなりました。その最上階には展

望台があり、大阪の街を一望することができます。実は、早速のぼってきました。上記写真は「あべのハルカス展望台からのぞむ『四天王寺』」です…。★7 頁下にも記載しましたが、『大悲』の発行は広告と定期購読によって支えられています。皆様のご協力、ご支援よろしくお願ひいたします。 (隅谷俊紀)

大阪教区・別院だより『大悲』 第13号
平成26年(2014年)4月1日発行 (発行部数2000部)
発行:大悲の会
事務所:佛光寺大阪別院内
〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話06-6
郵便振替口座:口座番号「00990-4-305218」加入者名「
大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会
長田 譲(会長) 佐々木太一
隅谷俊紀(副会長) 葦名 彰
寿栄松正顕(会計)
玉出宗順(会計)
門川崇志(監事)